

ライフケアガーデン湘南

症例概要 利用者：100歳代 女性 要介護2

利用期間：2025年8月頃～2026年3月現在

経過：右大腿骨骨折 左大腿骨頸部骨折

転倒骨折からご自宅での生活が困難になり入居。お看取りの状態から

ご家族の協力や食事の変更、趣味を活かしたアプローチで活気がでてQOLが向上した事例

内 容

90代前半で右大腿骨骨折後より車椅子生活となり、その後左大腿骨頸部骨折。住環境等総合的に評価した結果ご入居となる。入居当初は環境変化への不安が強く、視線は伏し目気味で表情は乏しく会話はほぼなく、問いかけには小さくうなずくのみであった。食事摂取量は著しく低下し低栄養と体力低下が懸念されお看取りの状態であった。

この課題に対し、介護、ナース、CMのOURTEAMが一丸となって再検討を行う。高齢であることを踏まえ、朝食を中止し無理のないペースで休息を優先する支援に変更した。スタッフは居室前を通る際は訪室し継続的に声掛けを実施、ユマニチュードケアを取り入れ親身な対応を心掛けた。ご家族面会時は、状態を丁寧に共有し在宅時の様子の聞き取りを行った。長男が歯科医師であるため義歯の調整など定期的に実施し食べる興味を持ってもらうことに繋げた。また食事の際食べやすい姿勢をとれるように手作りのオーバーテーブルを作成し自力摂取できる環境を整えた。ご家族からの嗜好情報を基にバナナを昼・夕に提供したところ摂取量が増え、栄養摂取の安定に繋がった。加えて食事時のご家族の優しい声掛けが安心感に繋がり、表情や反応に明らかに変化が見られるようになった。朝になると「おなかすいた」と訴えられることが多くなり、1月中旬より朝食を再開、3月上旬まで召し上がられていた。

長年の茶道経験に着目しお茶会参加を促すとご自身で和菓子を召し上がり、茶器でお抹茶を飲まれようとする姿が印象的でした。誕生日には家族全員に祝福されとても喜ばれていました。レクリエーションやイベントに積極的に参加され、入居当初の活気がなく食欲がないお看取りの状態から、笑顔と活気のある生活へと大きく変化した。そして残念ながら3月中旬ご逝去に至ってしまいました。最後まで口から食事を摂取することができ、その方らしい時間を大切に過ごしていただいた事は、私たちにとって大きな意味のある関わりができた。今後もOURTEAMで連携しながら、入居者さんに安心して生活できるよう親身な対応を続けてまいります。